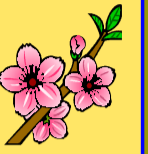


◆故郷と私◆



山下豊春 (福岡市在住)



私がユーターン転職したきっかけは2015年11月、それまで33年間勤務して来た田辺三菱製薬(旧田辺製薬)で早期退職の話が出たことでした。突然だった。転職先を探す時間も無く、思い浮かんだのは一ヶ月前に半休して聴講した、現在の勤務先による無料のシンポジウムでした。そのシンポジウムは認知症についての研究でした。聴講しようと思ったのは母が1998年に発症して以来、もう何も分からなくなっているのが心に浮かんだからでした。シンポジウムを主催した先生方にメールすると、幸い面接してくれることになり、2015年末に採用が決まり、翌年3月に福岡市に引っ越し、4月から篠栗の近くにある、現在の勤務先に勤務しています。

思い返すと、母は認知症で何も分からなくなっていますが、現在の勤務先への縁をつないでくれたと感謝しています。福岡市は歴史のある都市なので、散歩すると、新たな発見があります。今日も、管崎宮で鳥居の脇に「万民

和楽」という緒方竹虎ののぼりがあり、調べてみると、生まれは山形市ながら、修猷館で学んだこと、1年上級に中野正剛(東条英機に反対して自決に追い込まれた)がいたこと、そもそも、緒方姓は祖父が緒方洪庵の適塾に入門して、洪庵と義兄弟の盟を結び、その姓を与えられたこと、三男の緒方四十郎の妻が緒方貞子であること等、竹虎が多彩な人脈の結節点にいたことが分かり、うれしく思っています。



豊春氏は住職と同級生でお会いする機会があり、1月11日に原稿をいただきました。お父様の朴様はじめご家族は献身的に介護なさいましたが、ご母堂ユキエ様は1月25日にご命終なさいました。人欄に書いて頂いた吉田昭和氏と豊春氏は従兄弟になります。

御正忌・報恩講法要のレポート

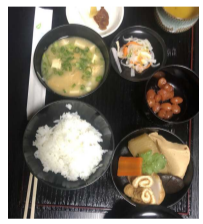
日時 令和元年十一月二十一日〜二十四日  
講師 吉元信暁先生(九州大谷短期大学教授)

吉元先生は大学教授です。或る寺院で「人生は宝の山である。しかし暗闇の中では宝であつてもつまずくだけである」との掲示文を眼にされたそうです。この文の教えは「つまずきとしか思えなかつたものが実はこの私を広い世界へと導いてくれたご縁でした」と解釈されました。



無我とは、「私というものが無い」という意味だそうです。もう少し分かり易く言うと、「私たちは私があると思ひ、これは私のものと執着して苦しみます」。ココロと変わる私の心には実体はない、私というものは無いというのが無我だそうです。意味深です。仏教だけに説かれた言葉です。報恩講の法要で

「人間は迷う存在である」と自覚したほうが良さそうです。この迷える私を教えて下さる場が仏の教えであり仏教の存在です。お釈迦さまは「人生は苦である」「人生は無常である」「人生は無我である」と説いておられます。約二、六〇〇年前の悟りです。私たちの人生どうでしょう？楽しくおもしろい時間より苦しくて辛い方が多いですよ。無常とは普通に使う「はかない、むなし」ではなく宇宙すべてのものは一瞬たりとも止まっていない、常に変化しているという意味だそうです。あなたも、周りの人達も、地球も、宇宙も常に変化しているという事です。真理と云えます。



御正忌のお斎



親鸞聖人のこの願いは『勤行集』五十八頁にあります。如来大悲の恩徳は身を粉にしても報ずべし 師主知識の恩徳もほねをくだきても謝すべし 合掌 いつものおいさん



ようこそ!

う。阿弥陀様の願いに報いて生きていくのが報恩講の意義だとの先生の教



御正忌夜、鍋を囲んで

心に留めておきたいことは、阿弥陀様は「皆平等に浄土へと導きたい」「つらい人生を引き受けていく為にはお念仏(南無阿弥陀仏)を称え

